

**CASBEE-新築(簡易版)2008年版**  
**特別養護老人ホーム はなの家とむろ**

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年  
 評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>0 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.1</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.6</b>	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.4</b>	0.35	<b>3.6</b>	1.00			<b>3.4</b>
2.1 室温制御		<b>4.6</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.50			
2.1.1 室温設定	冬期24、夏期24の室温が実現可能な設備容量確保	<b>5.0</b>	0.38	<b>5.0</b>	0.57			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能	必要部位への断熱材使用、及び複層ガラスの使用	<b>5.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.43			
2.1.4 ゾーン別制御性	細かなゾーニング毎に冷房・暖房が選択自由な空調システム	<b>4.0</b>	0.38	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.8</b>	1.00			<b>3.5</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30			
3.1.1 昼光率	十分な昼光率を確保出来る開口部を確保	<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60			
3.1.2 方位別開口		-	-	-	-			
3.1.3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15			
3.3.1 照度		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25			
<b>4 空気環境</b>		<b>4.1</b>	0.25	<b>4.0</b>	1.00			<b>4.0</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	ほぼ全面的にFを採用	<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	1.00			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>2.0</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38			
4.2.1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33			
4.2.2 自然換気性能		-	-	<b>3.0</b>	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	施設全体が禁煙である	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.8</b>	0.40	<b>4.8</b>	1.00			<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.60			
1.1.1 広さ・収納性		-	-	<b>5.0</b>	1.00			
1.1.2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
1.1.3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.40	<b>4.5</b>	0.40			
1.2.1 広さ感・景観		-	-	<b>4.0</b>	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
1.2.3 内装計画	建物全体のコンセプトに基づきインテリア・パースを作成し設備含めた検討	<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.50			
1.3 維持管理		-	-	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.5</b>	0.31	-	-			<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	施設の重要性から建築基準法の20%増の耐震性	<b>4.0</b>	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	多湿部位のダクトの長寿命化を図っている	<b>4.0</b>	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備有り、地下ビットの浸水の危険性少ない	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAを確保	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、地下ビットへの浸水の危険性少ない	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			2.8	0.29	2.7	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			2.4	0.31	2.4	0.50	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新が出来る	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供、施設機能提供による地域貢献、中間領域の形成等	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	緑地を設け、舗装面積は小さくなるよう努めている。排熱に配慮。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		PAL値が基準値の-18.9%	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=23.5	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針が計画されている	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ+節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	砂利地業への再生砕石の使用、タイル等へのEコマース商品の採用	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げの分別が容易、内装材と設備の分別も容易	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	化学汚染物質の含有した材料を使用しない	5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を使用しない	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率に基づくスコア換算=4.7	4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車利用、駐車場の確保に十分取り組んでいる	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ処理負荷軽減への取り組み管理を計画、分別回収容器の確保	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			5.0	0.40	-	-	
1	騒音	発生源は屋上に設置し、防音パネルで囲っている	5.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			2.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明器具に配慮、広告物照明は行わない	4.0	0.70	-	-	
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	